

建築版	施工段階	設備工事： 間仕切内配管	電気	○	設備工事 ポイントシート (6-3)
			空調	○	
			衛生	○	
			その他	—	
6-2	下地・ 間仕切				

乾式工法の間仕切には、空調設備や照明器具のスイッチ・コンセント・情報通信などの電気配線・配管が壁内に配置されたり、分電盤・制御盤などの操作盤が、直接間仕切壁に取り付けられることがあります。設計図の設備配線図や展開図は、設備設計担当者が作成し、設備担当者が位置確認をした上で、建築担当者に閲覧されますが、設備担当者任せにせず、工事着手前にチェックしておかなければなりません。

間仕切の工法（鉄筋コンクリート造の躯体壁の他、軽鉄下地ボード張り、ALC、金属パーティションなどの乾式工法）や幅、配管・配線ルート、位置などの納まり、下地補強の要否などの確認が必要です。

ポイント

■間仕切壁内の電線管の取付状態の確認

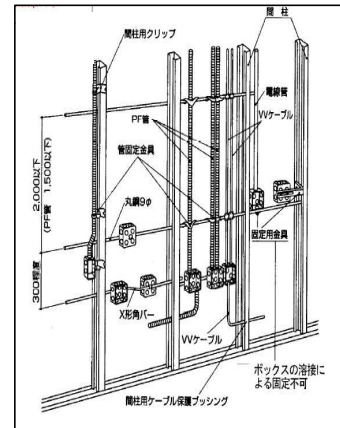
- ・ボックス類はスタッドを介して堅固に取付けられていますか。電線管もきちんと結束され固定されていますか。隠べい部になるので確認します。
- ・ボックスを背中合せに取付けていませんか。音漏れの原因になります。
- ・ケーブル配線でスタッド貫通部には所定の漏電防止は行われていますか。

■防火区画の確認

- ・間仕切壁が防火区画壁の場合は、114条区画、認定工法通りに施工されているか、仕上げで隠れる前に確認します。

■間仕切壁と衛生設備

- ・間仕切壁に洗面器など設置する場合は、堅固に固定するためには、補強板などが必要になります。設備担当者からの依頼工事を事前に打合せし、軽量下地補強やベニヤ板の設置を行うようにします。
- ・洗面器などの衛生配管を行う場合に、間仕切り壁内に納まらないと、ライニングが必要になります。建築担当者と設備担当者と早めに検討し、施工図に反映して手配します。



間仕切内の配管、ボックス取付

先輩アドバイス

- ・間仕切壁の下地ピッチや補強位置によりボックス設置ができない場所があります。スイッチ・コンセントが並ぶところは、建築担当者と設備担当者として下地や補強位置に関して打合せます。
- ・間仕切壁内の配管で指定された位置に確実にボックスを固定しないと、器具取付工事に影響します。

チェック項目

- ボックスの取付け位置は図面通りですか。
- 支持・固定状況は問題ありませんか。また、間仕切補強の打合せはしましたか。
- 防火区画の確認を行いましたか。

失敗すると...

- ・仕上げ工事の終了した壁面を解体し、やり直しなど大きな手戻り工事が発生します。工程に影響が出ます。
- ・壁内で配管を支持固定をしないと、ちょっとした振動でも軽量鉄骨と電線管がぶつかり騒音が発生します。また、ケーブルが傷つき、漏電が発生する危険性があります。

共通管理項目	合理化 省力化	施工性 向上	品質・性能 向上	工期短縮 ・圧縮	コスト削減 (材料)	コスト削減 (労務)	設備先行 工事	工事区分 見直し	責任所在 明確化
	○	—	○	—	—	—	—	○	○
備考	参考文献：						初版発行	2020/ /	
							改訂		